川崎市議会議員
本間 賢次郎 ケンジロウ
市政レポート No. 62（令和５年２月号）
未来へ働き続ける、想いを「ツナ」ぐ。
イメージキャラクター：本マグロ ツナジロウ
事務所 〒210-0834 川崎市川崎区大島 3-14-17
TEL044-742-8072 FAX044-211-1081

２月のご挨拶



いよいよ新年度予算案を審議する今年の第１回定例会（予算議会）を迎えます。川崎市議会では、定例会開会に先立ち、１月末には各会派、２月上旬からは各常任委員会へ、予算案の概要や提出予定議案の事前説明が行われますので、実質、既に議会モードに突入しています。

予算議会は２月 13 日に開会し、３月上旬に予定される予算審査特別委員会を経て、中旬まで開催することとなります。新たな一年の予算を決める重要な議会となりますので、本市の発展に繋がるよう努めて参ります。

東海道川崎宿起立 400 年の今年！ 地元の魅力発信、機運醸成へ予算議会で真剣勝負！

昨年の年末議会（令和４年第５回定例会）の一般質問において、私は地元の東海道川崎宿起立 400 年事業に特化して質疑し、地元の方々を中心として協議が進められている「川崎宿起立 400 年プロジェクト推進会議」からのヒアリング内容も含め、市長や川崎区長、また、同事業が本市の観光施策に与える影響等を関係部局へ見解を質しました。私が特に注目をしたのは、行政内部では区役所が孤軍奮闘のようにみられる中での庁内連携のあり方について、また、同推進会議からも要望の強い統一されたデザインの電灯付看板を設置した街路灯等の整備、そして、予算要求の状況です。

まず、庁内連携のあり方についてですが、そもそも、市長はこれまでも私からの質問に対し、「区制 50（40）周年、東海道川崎宿起立 400 年、そして、市制 100 周年へと各地域資源を活用して、シビックプライド（郷

土愛）や機運の醸成に取り組む」と答弁を続けていました。しかし、コロナ禍の影響もあり、当初、思い描いていたような状況となっていない状況となっています。この状況については、未知のウイルスとの闘いの最中にあってのことなので、致し方のない部分もありますが、庁内においてどのように連携を図ろうとしてきたのかは見えてこず、改めて、市長の見解を尋ねました。市長からは「多くの市民を巻き込んで、これからの 100 年につながる文化を創る機会としていくには、市民に身近な各区での展開が非常に重要であり、川崎宿起立 400 年の事業を含めた各種事業との連携により、市制 100 周年の機運醸成につながるよう、効果的な連携事業の検討を進めている」との答弁があり、また、観光施策を担う経済労働局長は、昨秋に注目を集めた「川崎夜市」と東海道川崎宿起立 400 年との連携に言及するなど、今後の成果を期す内容となりました。

次に、街路灯等の整備については、市長も「旧東海道の魅力を高め、川崎宿の歴史、文化をより多くの方に知って頂くために効果的」と必要性を認め、川崎区長からも「訪れた方々にかつて東海道川崎宿があった歴史を伝えられるとともに、街道としての景観や雰囲気が醸成されることで来訪者の増加が期待できるものと考えており、関係局と調整を進めている」と答弁があり、設置に向けて、前向きに捉えられていることが確認できました。

最後に、肝心な予算に関してですが、街路灯等の整備について、川崎区長は、起立 400 年となる令和 5 年中に区内の旧東海道の全区間の整備を望む声が多く上がっていることを踏まえ、「街路灯などの整備をはじめ、東海道の魅力向上のための取り組みが進展するよう、引き続き調整を進めたい」と述べ、迅速な整備に向け、財政局への予算要求に臨んでいる旨を明らかにしました。また、私が令和 3 年の予算審査特別委員会で提案した予算確保策としてのふるさと納税の活用についても「来年度に向け、寄附の選択メニューへの追加や寄附金の活用状況の周知について関係局と調整している」と答弁があり進捗を確認することができました。

いよいよ、予算が明らかとなる議会で、実際に、具体的に取り組むのか、一層踏み込んで、真剣勝負で質疑に臨み、予算確保、そして地元愛の醸成、地域活性化、魅力発信に最大限、取り組んで参ります。